

江戸時代の後期、国定忠治という侠客が度々信州中野に来ていたといわれている。群馬県の大戸の関所破りをして磔刑になり、最期を遂げるいきざまが、後の人々の共感を得て、明治から平成の初期まで講談・映画などで人々に広く知られていた一人であった。

昨年の暮れ、この国定忠治が渡ったと言い伝えられている石橋が、信州中野の八ヶ郷用水取入口付近（夜間瀬川左岸字松崎）で見つかった。そこでこの言い伝えの信憑性と合わせ、忠治が北信濃で残した痕跡を調べることにした。



『赤城録』より

結論から言うと、国定忠治が渡ったと言い伝えられている石橋は、非常に信憑性が高い。理由を次に述べたい。

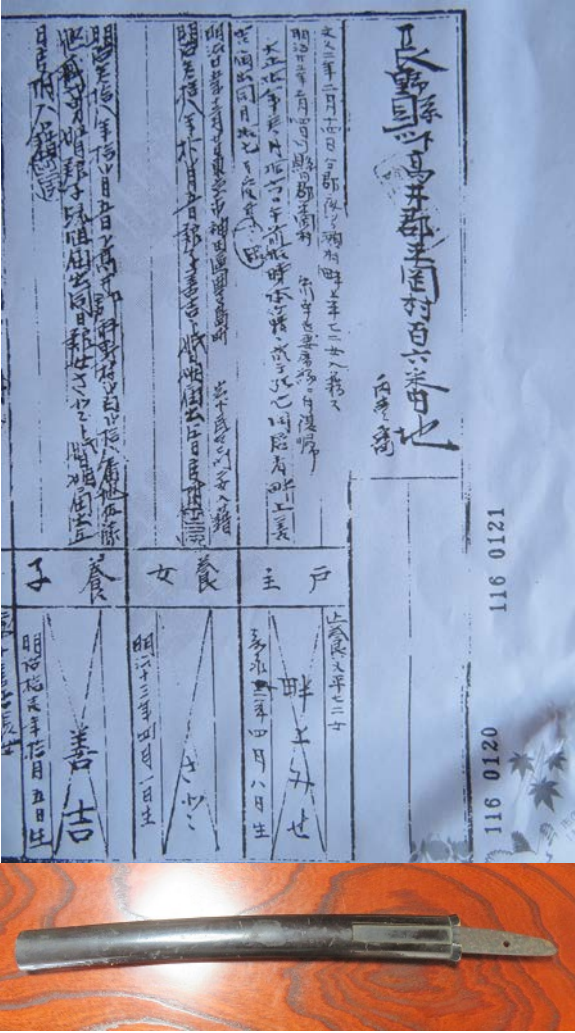
一、言い伝えは、忠治が渡ったと言われる石橋の目の前の畔上家で、代々伝承されているものである。

二、畔上家では、戸籍で当主畔上みせさんが文久二年以前に生まれ、大正十一年に亡くなった事が確認でき。みせさんの伝えを、その子である善吉さんが現在の当主であり、孫である武男（四代目）さんに子

三、  
 武男さんによると、畔上家は忠治が生きていた時代お茶屋だった。高梨城跡にあった馬屋を当主みせさんが現在の石橋前に移し、駄菓子の販売等をしていたという。その家で武男さんも育ち、長い縁側があり、馬のたづなをかける金具もいくつかあったとのこと。忠治は長野権堂・中野湯町・山ノ内上条川原の旅籠屋などで行われていた賭場荒しなどで、頻繁に石橋を渡っていたと推察される。畔上家二代目の善吉さんも、山ノ内に脇差しをもつて遊びに行ったという。その脇差しは今も受け継がれている。

四、  
 高梨の時代（江戸時代前）より続いている夜間瀬本郷の畔上秀雄さんの証言でも、畔上家の伝承は間違いないだろうとされている。

五、  
 国定忠治の信州における史料は皆無に近い。主に生まれ故郷の群馬県の歴史研究者により、『赤城録』などを参考になされている著書の中でも、忠治が信州中野から志賀高原を通ったとする記述が多い。



（畔上家の先祖みせさんの戸籍と代々伝わる脇差し）

次に忠治の年表を紹介したい。この年表は西郊民俗談話会が連載としてホームページに、「民俗学の散歩道」第二二回（二〇一五年七月号）長沢利明著「国定忠治の伝承」の表4である。

国定忠治関連年表

- ◇ 一八一〇年（文化七年）  
上州佐位郡国定村の長岡家に忠治生まれる。
- ◇ 一八二一年（文政四年）  
十一歳で父与五左衛門が死亡、母親の手で育てられる。
- ◇ 一八二三年（文政六年）  
十三歳で博奕を覚え、博徒への道に入る。
- ◇ 一八二七年（文政十年）  
十七歳の時、初めて喧嘩で人を殺める。大前田栄五郎（河越穎吾）大親分のもとへ身を寄せて隠れ、無宿人となる。
- ◇ 一八三〇年（天保元年）  
大前田栄五郎のすずめで栄五郎の子分、百々村（後の佐波郡境町内）の紋次（紋二とも）の配下に。紋次の死後、その縄張りを譲られて跡目を相続し、一家を成す。忠治二十一歳。
- ◇ 一八三四年（天保五年）  
七月二日、子分の三ッ木文蔵が賭場で殴られた件の仕返しに、隣の縄張りを持つ島村（町田）伊三郎を米岡神社におびき出し、闇討ちにして斬殺。信州へ逃亡。信州の勝太の客となるが、信州の博徒らの裏切りで召捕られそうになる。それを見破って上州へ逃亡。赤城山に籠る。日光円蔵・八寸犀乙・山王民五郎・武川浅二郎らの子分を抱え、一家が拡大。
- ◇ 一八三五年（天保六年）  
玉村宿の玉村京蔵・主馬兄弟が山王堂村の山王民五郎の賭場を荒らしたため、民五郎に子分二人を加勢させて山王兄弟を襲撃させる。
- ◇ 一八三六年（天保七年）  
信州中野村で弟分の茅場長兵衛（兆平とも）が、博徒源七に殺される。子分二十人を連れて仇討のため信州へ。源七はすでに逮捕されており、上州へ戻る。

◇一八三七年（天保八年）  
 三月、子分の三ツ木文蔵が公儀に逮捕され、木崎宿に宿泊中の役人を襲って奪還をこころみるが失敗。信州などへ逃亡。田部井村名主宇右衛門と謀り、磯沼浚渫工事の人足小屋で博奕開帳。賄賂十七両を宇右衛門に贈る。八州出役六〇〇人が賭場を急襲、日光円蔵らとともに再び逃亡。

◇一八三八年（天保九年）  
 三月、四月、東上州大間々宿周辺に潜伏。関八州取締出役の大規模な捜索を受けるが、逃亡。

◇一九四一年（天保十二年）  
 玉村主馬が山王民五郎を殺害。

◇一八四二年（天保十三年）  
 忠治、逃亡中の会津から戻って玉村主馬を殺し、山王民五郎の仇を討つ。田部井の賭場の手入れの件で、その場にいなかった子分の板割浅太郎（浅次郎とも）が、その伯父で二足のワラジを履く三室の中嶋勘助に密告したのではと嫌疑をかける。九月十三日、浅太郎に勘助とその子の太郎吉（勘太郎）を斬殺させる。九月、日光の円蔵以下、忠治一家九人の手配書が関八州から出される。一家は公儀の追手を逃れるため鎗・鉄砲で武装して大戸関所を破る。信州路で殺された長兵衛の仇討ちを理由に、多数の子分を引き連れて信州へ脱出。子分の板割浅太郎・日光の円蔵が逮捕され、死罪となる。

◇一八四六年（弘化三年）  
 公儀の追手から逃れて赤城山に潜伏。信州・甲州から越後・会津・美濃まで放浪したと伝えられる。

◇一八四九年（嘉永二年）  
 十一月、境川の安五郎に跡目を譲って親分を引退。

◇一八五〇年（嘉永三年）  
 七月、潜伏先の赤城山を脱出。妾のお町宅で七月二十一日、中風で倒れる。田部井村の宇右衛門宅に潜伏中の八月二十四日、関東取締出役によって捕縛される。江戸送りとなり、伝馬町の牢屋入り。十一月、勘定奉行池田播磨守頼方預りで吟味がなされ、死罪判決が出る。

される。十二月二十一日、三度におよぶ関所破りの罪により上州大戸の処刑場へ送られ磔刑。十四本の槍を受け、四十一歳の生涯を終える。処刑時の警護人は三〇〇人、見物人は一五〇〇人を記録した。遺体は養寿寺・善応寺などに葬られる。野沢温泉に忠治地蔵が祀られる。

- ◇ 一八五一年（嘉永四年）  
上州岩鼻陣屋代官で儒学者であった羽倉簡堂（外記）の手で、『劇盗忠二小伝（赤城録）』がまとめられる。
- ◇ 一八六〇年（安政七年）  
宝井琴凌による講談『国定忠次』初演。
- ◇ 一八七九年（明治十二年）  
『国定忠治実伝』がまとめられる。
- ◇ 一八八二年（明治十五年）  
忠治三十三回忌に養寿寺に墓石が建てられる。
- ◇ 一九一九年（大正八年）  
新国劇『国定忠治』上演（行友李風・沢田正二郎作）。
- ◇ 一九二五年（大正十四年）  
土師清二による大衆小説『深紅赤城おろし嵐』。
- ◇ 一九二七年（昭和二年）  
日活無声映画『忠治旅日記』制作・上映。「甲州殺篇」・「信州血笑篇」・「御用篇」の三部作（伊藤大輔監督・大河内伝次郎主演）。
- ◇ 一九三二年（昭和七年）  
子母沢寛による毎日新聞連載小説『国定忠治』が発表される。新国劇『国定忠治』上演（真山青果作）
- ◇ 一九三三年（昭和八年）  
千恵蔵プロ映画『国定忠治』（稲垣浩監督・片岡千恵蔵主演）。
- ◇ 一九三四年（昭和九年）  
新興トーキー映画『忠治売出す』（伊丹万作監督）。日活映画『国定忠治』（山中貞雄監督）。松竹キネマ『浅太郎赤城の唄』（秋山耕作監督・高田浩吉主演）。
- ◇ 一九三五年（昭和十年）  
『浅太郎赤城の唄』の主題歌であった東海林太郎の「赤城の子守唄」大ヒット。

- ◇一九三六年（昭和十一年）マキノトーキー映画『国定忠治信州子守唄』（マキノ正博監督・月形龍之介主演）。『忠治血笑録』（久保為義およびマキノ正博監督・葉山純之輔主演）。『忠治活殺劔』（久保為義およびマキノ正博監督・清水英太郎主演）。
- ◇一九三七年（昭和十二年）長谷川伸による大衆小説『国定忠治』。
- ◇一九三八年（昭和十三年）東海林太郎「忠治子守唄」大ヒット。
- ◇一九三九年（昭和十四年）東海林太郎「名月赤城山」大ヒット。
- ◇一九四六年（昭和二十一年）大映映画『国定忠治』（松田安次監督・阪東妻三郎主演）。
- ◇一九五〇年（昭和二十五年）新国劇『極付国定忠治』上演（辰巳柳太郎主演）。
- ◇一九五四年（昭和二十九年）日活映画『国定忠治』（滝沢英輔監督・辰巳柳太郎主演）。
- ◇一九五七年（昭和三十二年）新国劇『国定忠治』上演（村山知義作）。松竹映画『赤城の血煙』（福田晴一監督・高田浩吉主演）。
- ◇一九五八年（昭和三十三年）大映映画『国定忠治』（松田定次監督・片岡千恵蔵主演）。
- ◇一九六〇年（昭和三十五年）東宝映画『国定忠治』（谷口千吉監督・三船敏郎主演）。第二東映映画『浪曲国定忠治赤城の子守唄血煙り信州路』（冬島泰三監督・若杉恵之介主演）。
- ◇一九六七年（昭和四十二年）長野県長野市の善光寺開帳記念行事として、国定忠治祭りが開催され、養寿院より分骨がなされて市内権堂町に忠治の墓が設けられる。
- ◇二〇一二年（平成二十四年）長野県下高井郡野沢温泉村に忠治地蔵が再建される。

ここで本題である国定忠治の北信濃の痕跡を前述の年表から追うことにした。まず、「一八五〇年（嘉永三年）、

野沢温泉に忠治地蔵が祀られる。」とされている。『群馬県遊民史』（荻原進氏著）に、「忠治が吾妻郡大戸で処刑されたのが嘉永三年十二月二十一日であったのに、その三日後の十二月二十四日にこの像が建てられたことは、そこに深い秘密があるのかもわからない。」と書かれている。このことに関心を持たれた上野正氏が、『高井百四十五号』で「国定忠治は野沢温泉に潜伏していたか」と題して投稿されている。像に刻まれている「畔上つま」は、忠治が亡くなって十年以上たってから生まれている。忠治の愛人説は否定され、忠治とつまは生きた世代のちがう人間ですから、会ってもいません。勿論つまは忠治の愛人などではありません。また、忠治が野沢温泉に潜伏していたという、証拠になるものは一つもありませんので、「国定忠治野沢温泉潜伏説」は、その根拠を失いました、と結ばれます。

次に、「一九六七年（昭和四十二年）に、「長野県長野市の善光寺開帳記念行事として、国定忠治祭りが開催され、養寿院より分骨がなされて、市内権堂町に忠治の墓が設けられる。」とある。このことは、『長野市権堂町史』に、「秋葉神社境内「四条霊社」の東側に、国定忠治の墓碑があると書かれていることから裏付けられる。これは中山寛茂さんが昭和四十二年に建立したものである。なお、同五月、権堂町忠治まつりの会が、「国定忠治ものがたり」のパンフレットを発行したとある。祭りは忠治の名声を受け、観光振興のため平成二十四年頃まで行われていた。年表には二〇一二年（平成二十四年）「長野県下高井郡野沢温泉村に忠治地蔵が再建される。」とある。『高井百四十五号』の「国定忠治は野沢温泉に潜伏していたか」で、上野氏は、「野沢にあった忠治地蔵は、昭和三年頃須坂の青木屋の土蔵に移され、その後昭和二十五年頃須坂市上町の寿泉院に地蔵堂を作り移された。」と書いている。現在野沢温泉村の麻釜上手の薬師堂の前にある地蔵は、有志が二〇一二年（平成二十四年）に建立した、と立て札に書かれている。観光振興のため作られたものと思われる。前記の年表に載っていないが、志賀高原硯川ホテル前の前山リフト乗り場付近に、「忠治の隠れ岩」なるものがある。

る。平成十年に山ノ内町の和合会が観光振興のため、石碑・案内板などを整備した。和合会から、「観光名所になりそうな岩が、忠治の通ったとされる草津道脇にあり整備し、五年程毎年硯川と渋温泉でお祭りを行った。」と説明を受けた。

次に「国定忠治が残した北信濃の痕跡」について、年代順にまとめてみたい。

一、須坂市上町の寿泉院にある「地藏堂」―忠治地藏には一八五〇年（嘉永三年）十二月二十四日、世話人畔上つま、石工服田実と刻まれている。畔上つまは約十年後の一八六一年（文久三年）七月九日生まれ。畔上つまが成人（明治）になって作られたもので、十二月二十四日は忠治の亡くなった日（三日違いは当時では誤差）と思われる。





二、長野市権堂、秋葉神社境内にある「国定忠治の墓碑」  
―中山寛茂さんが一九六七年（昭和四十二年）に建立。



三、志賀高原硯川ホテル前の前山リフト乗り場付近にある「忠治の隠れ岩」―一九九八年（平成十年）に、山ノ内町の和合会が石碑・案内板などを整備。



四、野沢温泉村に再建された「忠治地蔵」―二〇一二年（平成二十四年）に忠治地蔵が地元有志により再建。



五、中野市松崎の八ヶ郷用水取入口付近の国定忠治が渡ったと言い伝えられている石橋―二〇一八年（平

成三十年）畔上家の言い伝えについて、近くの有志が案内板を設置。



手前が国定忠治が渡ったと言い伝えられている石



設置されたいわれなどを記す石橋の案内看板

### 結び

国定忠治が残した北信濃の痕跡を整理してみると、一項は中風よけ地藏として造られたと思われるが、謎である。二項、四項は忠治が亡くなった後、その名声をあやかるため残されたものであろう。その点、五項は国定忠治が信州中野の地を歩いた事を次世代に伝えるただ一つの石橋で、将来の保存方法について行政・住民と考える価値がある。

### 参考文献

- ・『赤城録』（写し）群馬県立図書館所有一八五一年（嘉永四年）羽倉簡堂著
- ・西郊民俗談話会ホームページに連載の「民俗学の散歩道 二二」二〇一五年（平成二七年）七月号「国定忠治の伝承」長沢利明著
- ・『大間々町誌』「基礎資料」大泉院日記「大間々町誌編さん室編一九九六年（平成八年）」
- ・『江戸のアウトロー（無宿と博）』阿部昭著一九九九年（平成十一年）

・『国定忠次名月赤城山』笹沢左保 萩原進共著

- ・ 一九八二年（昭和五十七年）
- ・ 『群馬県遊民史』荻原進著一九八〇年（昭和五十五年）
- ・ 『高井百四十五号』「国定忠治は野沢温泉に潜伏していたか」二〇〇三年（平成十五年）上野正
- ・ 『長野市権堂町史』一九九三年（平成五年）権堂町史編集委員会
- ・ 『志賀高原・渋温泉・杓野温泉（義民・侠客 国定忠治伝）』一九九九年（平成十年）大蔵谷明著

（中野市竹原一七七七）